

読み比べて話のおもしろさを表現しよう

大阪府豊能町立東能勢小学校

矢吹 ゆかり

一 はじめに

今まで、一つの作品をじっくり読み、その作品の世界を味わいながらおもしろさを見つけていく方法で学習することが多かったが、今回は比べ読みや重ね読みなどを通して、ほかの作品との関わりの中でお話のおもしろさを見つけていく方法で取り組んでみようと考えた。お話のリズムのよさを大切にして読ませたい。

目標に応じてテーマを決め、まず自分の考えを書く。次に班で自分の考えを発表し、それぞれを比較しまとめる活動をする。その後班でまとめた考えを発表し、学級全体で交流し合う。この活動で、まず自分の考えを書くために作品を丁寧に読む。また友だちの考えを自分の考えと比べながら聞くことで、自分と異なる視点での読みを知り、自分の考えや物語の読みを深めることができると考ええる。

二 単元について

(一) 教材名

アデイ・ニハアスの英雄／黄金の土（エチ

オピア民話）三省堂『小学生の国語 学びを広げる 六年』より

(二) 単元計画（全六時間） 〔左表〕

次時	目標	学習活動	〔評価基準〕概ね満足できる	努力を要する場合の手立て
1	・二つの教材文を通読し、感想を発表することができ る。 ・通読し、感想を書き発表 する。	・エチオピアを地図で確認 し、知っている事を出し合 う。 ・通読し、感想を書き発表 する。	興味を持って物語を読み、 感想を発表しようとしてい る。	興味を持った部分に線を引 かせ、思ったことを書かせ るようにする。
2	・作品のおもしろさを見つ け、読みを深める。	・「アデイ・ニハアスの英雄」 のおもしろさについて感想 を交流する。	作品のおもしろさを見つけ、 感想を交流しようとしてい る。	友だちの意見も参考にした りするように助言する。
3	・作品を比べて読み、おもしろ さを見つけ、読みを深め る。	・「黄金の土」の感想を交流 し、自分と友だちの感想の 共通点や相違点を見いだ し、作品の読みを深める。	二つの作品を読み比べなが らそれぞれのおもしろさを 見つけようとしている。	おもしろいと思った所に印 をつけたり、班の人の意見 を参考にしたりするよう促 す。
4	・二つの作品から読み取れる 人々の生き方や感じ方につ いて意見を述べ合う。	・二つの作品のどちらが好き か理由を述べて発表し合 う。 ・二つの作品を読み比べて共 通点を見つける。	それぞれの民話からエチオ ピアの人々の生き方や感じ 方を見つけようとしている。	一人一人の考え方の違いを大 切に、互いに認め合う雰囲 気作りをする。
5	・他の作品へと読み広げ、読 書の楽しさを知る。	・いろいろな国の民話・伝記・ 物語などいろいろな分野から 探す。	いろいろな分野の本に興味を 持ち、読もうとしている。	個に応じられるように司書 と連携した活動を計画する。
6				

三 授業の実際

①比べ読みや重ね読みなどを通して、ほかの作品との関わりの中でお話のおもしろさを見つけ多面的にとらえる。

②世界の民話の楽しさに触れるとともに、世界の文化に触れ、視野を広げる。

③「書くこと」を通して自分の意見をまとめ、それを「話すこと」で人にわかってもらうこと喜びや難しさを知る。そして、「聞くこと」で他の人との考えの違いやまとめ方の方法を学び、より深く自分の意見がもてるようする。

おもしろいと思つた根拠をはつきりさせる。

アデイ・ニハアスの英雄

☆自分を数えていないだけに、その人の事を悲しんだり、喜んだりして想像し、どんな話がエスカレートするところ。

☆死んだと思つていた誰かの事をちゃんと思つて良い所を言い合っている。

☆「ヒョウのむれと戦つた」という勘違い。

☆女の子のおかげで全員無事に帰つてくれたことがわかつたこと。

☆ヒョウをやつつけて戻つてきた話になり、数え間違ひとか、どうやってヒョウをやつつけたのかとか考えないところ。

☆このことから架空の英雄が生まれ、祭りをし、ずっと伝えられていくところ。

黄金の土

☆ひとかけらの土もあげないで大切にするとということ。

☆土は、先祖・大人・子どもが、踏み固めて出来たものって言つたところ。

☆エチオピアの人は自分の国がとても好き。

☆どんなに珍しい贈り物よりも土の方が大切だというエチオピアの人はすごい。

☆エチオピアの大地はわたしたちの父であり母であり兄弟なのでと云つて、エチオピアのことを家族のように大事にしている。

☆世界で一番美しいと思つているところ。

短冊を使いながら感想を交流する。

自分が考えたことを班の中で出し合い、出てきた意見を短冊に書いていく活動の中で、みんなの意見を大切に認め合い、同じものはまとめるようにさせた。

学級全体で交流する時に短冊を黒板にはりだしていき、同じものはまとめていきながら、より多くの意見を出し合つていった。

この国の人たちの生き方や感じ方を知る。

交流したものを見ながらとなりの人と話し合う時間をとつたあと、二つの民話からこの国の人たちの生き方や感じ方を発表し合つた。

「前向きにがんばる人たち」「自分の国を大切にしている」「おおらか」など感じ取れることを表現していた。

四 学習の成果と課題

二つの作品のおもしろさを比べたり、共通

点を見つけたりするという初めての試みの授業であったが、子どもたちは大変興味を持って取り組み、多読の良さに気付くことができた。二つの作品がエチオピアというあまり知らない国の民話である。子どもたちは自ら何度も民話を読み返してその中から、この国の人々の思いや感じ方を読み取ろうとしていた。

自分の思いを書き、班で交流し、それを短冊に書いて全員で交流するという方法は、一人一人が自信を持つことができ、活発な発言につながった。しかし、班や学級で意見を出し合いながら上手く整理したり、検討したりする力をつけていかなければいけないと感じた。

五 おわりに

比べ読みが、子どもたちに話のおもしろさの種類をはつきり教えてくれた。「おもしろい」という表現にもいろいろなおもしろさがあり、比べ読みをすることで自然に自分の言葉を使って表現していた。

「書くこと」に課題を持つ児童が多いが、今回の授業で児童が自らの言葉で表現しようとする様子を見て、思考するために必要な「書くこと」について、さらに研究を深めていきたいと思つた。

やぶき ゆかり 豊能町立東能勢小学校教諭。